

西九州大学・西九州大学短期大学部の生成 AI についての基本方針

令和 5 年 12 月 6 日
西九州大学
西九州大学短期大学部
学長 福元 裕二

《基本方針》

人工知能（AI）技術の進歩によって、文章や画像などを出力する「生成 AI」が登場している。生成 AI の利用は、社会のさまざまな領域で広がりつつあり、これによってビジネスの仕組みや人々の生活などが大きく変わろうとしている。大学の責務である研究や教育の分野でも、生成 AI の活用でより創造的な取り組みや質の向上を実現できると考えられる。

本学は、建学の精神として「高度の知識を授け、人間性の高揚を図り、専門知識と応用技術をもって社会に貢献し、世界文化の向上と人類福祉に寄与する人物を養成する」ことを掲げている。60 年を越す歴史の中で、本学は常に先進的な技術に対応した研究や教育に取り組んできた。このことは生成 AI という新技術に対しても変わることはない。本学は、真理の探究や社会に貢献する人材の育成、地域貢献など高等教育機関が取り組むべき多様な分野で生成 AI を積極的に活用することを方針とする。

《運用指針》

生成 AI を積極的に活用する方針を採るとはいえ、生成 AI は発展途上の技術であり多くの課題があることに留意しなければならない。生成 AI は、大規模言語モデル（LLM：Large Language Model）と呼ばれる自然言語処理のモデルを利用している。このモデルは既存の大量のデジタルデータを基に構築している。このため、著作権を侵害する可能性のある生成物を出力する恐れがある。また、生成物に虚偽の情報を含むことが多いことは特に留意しなければならない。個人情報や未発表の研究データなどを入力すると、これらが大規模言語モデルに取り込まれ、情報流出につながる恐れもある。

こうした課題を持つ生成 AI の利用に当たっては当然、適切な対策が必要である。このため本学は、生成 AI 利用のためのガイドラインの整備や情報公開を教務委員会において継続的に進める。課題の提出や研究論文の執筆などで、生成 AI の出力を自分の創作物として利用する行為は許されるものではない。授業での活用にあたっては担当教員が適切に指導し、場合によっては生成 AI の利用を制限することもある。

《留意事項》

生成 AI は、あくまで新技術の一つに過ぎない。今後も、社会に変革をもたらす新しい技術は次々に登場するであろう。西九州大学・西九州大学短期大学部は、教育と研究に資する新技術と向き合いつつ、適切な教育研究への導入について不断の注意を払わなければならない。